

名古屋大学経済学部における学生が取得すべき知識及び能力

名古屋大学経済学部は、学生に対する教育上の達成目標として「基礎的分析力の養成」、「自主的探求力の養成」を掲げ、次のような方針と計画を立てている。

(1) 基礎的分析力の養成

<方針>

基礎的科目の開講頻度を上げ、履修計画に出来るだけ制約がかからないようにして、学生の個性に合わせた履修を少しでも容易にすることで、基礎を確実に修得することを目指す。

<計画>

- ・質の高い教養教育と専門教育を教授し、国際的に評価される教育効果の達成を目指す。
- ・全学教育、学部、大学院の間における教育内容の一貫性の向上を図る。

(2) 自主的探求力の養成

<方針>

問題を自分で発見・整理し、分析・考察および検討を自主的に行うような積極性と自立性を身につけさせるため、学生にとって魅力ある講義の開講に努めると同時に、少人数による学生の主体的な勉学すなわち演習を重視し、演習での自主的研究活動を活発化する。

<計画>

- ・魅力ある独自の教育プログラムを提供し、優れた人材の育成を図る。
- ・魅力ある教育プログラムを提供し、それに沿った実効ある教育を実施する。

上記の教育目的を実現するために、次のような教育課程を編成している。

経済学部の教育課程は、全学教育科目、専門系科目からなり、専門系科目はさらに、必修の演習（ゼミナール）および卒論研究、必修性の極めて高い専門基礎科目、必修性の高い専門科目、選択性のある関連専門科目からなっている。2年次以降、学生は経済学科と経営学科に分かれるが、双方の学科に対し、必修性の高い専門科目、および選択性のある関連専門科目として、それぞれ異なる講義科目群の組み合わせが用意されている。それぞれの学生が自身の将来のキャリア設計に応じた履修計画を立てられるように、経済や経営のジェネラリストとしてのコース、専門職コース、研究者コースなどの履修パターンモデルを、経済、経営両学科それぞれについて複数提示している。

また、経済学部の教育目標も学生が使用する『経済学部ハンドブック』等に明示されており、学生のキャリア設計の構築、履修パターンの選択に際しての参考に供されている。

さらに、経済学部の教育課程においては、全学教育と専門教育が楔形に配置されており、専門教育の前提となる教養科目や基礎科目等を低学年次に履修する形を基本としつつも、早い段階から専門科目にも取り組めるよう配慮されている

これに加え、一定の要件を満たした成績優秀者に対しては、学部4年次に大学院科目を先行履修できる学士課程・大学院博士前期課程5年一貫教育プログラムを実施している。この他、他学部の専門科目を一定の範囲内で経済学部の関連専門科目の単位として認めており、学生の多様な問題関心、学習意欲にも対応している【資料Ⅱ-1-2参照】。

経済学部の教育目標 (アドミッション・ポリシー)
 —アドミッション・ポリシー—
 現代の経済社会はダイナミックに変化しています。
 現実への鋭い関心をもった皆さんの入学を。
 —教育目標—
 基礎的分析力
 自主的探求力

【出典：経済学部ハンドブック 2010 表紙裏面】

経済学部主要専門系科目

1年	統計解析	会計Ⅰ、Ⅱ	経済数学 A、B
	マクロ経済学Ⅰ	ミクロ経済学Ⅰ	政治経済学Ⅰ
	一般経済史Ⅰ	経営Ⅰ	計量経済Ⅰ
	財務諸表Ⅰ		
2年前期	マクロ経済学Ⅱ	ミクロ経済学Ⅱ	政治経済学Ⅱ
	一般経済史Ⅱ	経営Ⅱ	計量経済Ⅱ
	財務諸表Ⅱ		
2年後期～4年	国際経済	公共経済	経済学史
	財務会計	管理会計	経済学演習Ⅰ、Ⅱ
	経営学演習Ⅰ、Ⅱ	経済政策	財政
	金融	現代資本主義	日本経済史
	経営組織	ファイナンス	生産管理
	情報処理	国際会計	経済発展
	経済地理・地誌	日本経済論	大学生のための職業論
	経営分析	労働経済	産業組織
	農業経済	西洋経済史	社会思想史
	経営労務	マーケティング	経営戦略
	監査	経営情報	卒論研究Ⅰ、Ⅱ

【出典：経済学へのアプローチ 2011年 p.3】

卒業要件は全学教育科目で48単位以上、専門系科目で84単位以上、合計132単位以上の取得である。経済学部では教育目標を達成する上で、少人数制の演習授業と卒業論文の作成を特に重視しており、演習Ⅰ・Ⅱ、卒論研究Ⅰ・Ⅱを必修科目とし、密度の高い専門教育を行っている。この演習担当教員が原則として各学生の指導教員でもあり、学修全般にわたる指導・助言も行っている。卒業論文の水準はこうした少人数編成のゼミナールや卒論研究における個別的な指導によって担保されている。

卒業に必要な履修単位数

科目区分		履修単位	
全学教育科目	全学基礎科目	基礎セミナーA・B	4
		言語文化	18
		健康・スポーツ科学	4
	文系基礎科目	8	
	文系教養科目	4	
	理系基礎科目・理系教養科目	8	
	全学教養科目・開放科目	2	
	合計	48	
専門系科目	専門基礎科目（選択必修）	28	
	専門科目	演習Ⅰ、演習Ⅱ	4
		卒論研究Ⅰ、卒論研究Ⅱ	4
	専門科目（選択必修）・関連専門科目（選択）	48以上	
	合計	84	
	総計	132	

【出典：経済学部ハンドブック2010 p.7】